【資料3−4】令和8年度在宅医療・介護連携の推進に係る
自治体セミナー及び東海北陸厚生局管内6県意見交換会

令和８年度　在宅医療・介護連携の推進に係る東海北陸管内6県意見交換会資料

# 在宅医療・介護連携の推進に係る市町村支援に向けた取組（静岡県）

令和８年９月14日

福祉長寿政策課

# Ｒ８年度　在宅医療・介護連携推進事業について

| | 内容 |
|---|---|
| Ｒ７年度に実施した取組（事業・会議等）の内容 | ・在宅医療・介護連携コーディネーター情報交換会（県医師会との共催）<br>・在宅医療・介護連携コーディネーターの座談会（県医師会との共催）<br>・市町ヒアリングの実施<br>・県独自で「見える化」ツールを作成し、医療介護連携の区分に複数の指標を設定することで、自己分析ができるようにし、配布した。<br>・在宅医療・介護連携推進事業との連携が求められる「在宅医療に必要な連携を担う拠点」に対して、県補助制度を創設し活動費の助成を実施<br>・県医師会の地域包括ケア情報システム「シズケア＊かけはし」の普及促進 |
| 市町の現状と課題 | ・令和８年度市町ヒアリングにて市町から出された意見<br>（拠点としてどのような役割を果たせば良いのか悩む、医療機関ごとの連携差が課題、市町外から医師が来ていることも多いため連携が難しくなっている、）<br>・「在宅医療において必要な連携を担う拠点」について、静岡県内で11市町が位置付けを行い、当該事業との連携を図った<br>・４つの場面に分けた目標設定する市町は増加したものの、４つの場面を意識した取組まで落とし込めている市町は少ない。<br>・ＫＤＢ等のデータを活用した現状把握については、やりたいと考えている市町多いものの、どのように活用してよいか分からないといった意見が多い。 |
| 県としての評価（取組が必要と思われること） | ・ＫＤＢや見える化等を利用し現状把握・対策検討を行える市町が少ないため、積極的にデータの利活用ができるような取組が必要。<br>・「在宅医療において必要な連携を担う拠点」の活動と在宅医療・介護連携推進事業は、ほぼ同様の内容となっているが、地域で活動状況の把握まで至っていない。医政局地域医療計画課長通知で、都道府県に求められる事項として、連携拠点が地域で担っている役割の把握と連携上の課題の抽出等の実施状況の確認等が示されたことから、次期医療計画に追記し、対応していく。 |
| 現状・評価を踏まえたＲ８年度の対応策（事業内容） | ・在宅医療・介護連携コーディネーター情報交換会の実施（県医師会との共催）<br>・在宅医療・介護連携コーディネーターの座談会の実施予定（県医師会との共催）<br>・市町ヒアリングの実施<br>・「在宅医療において必要な連携を担う拠点」に対する支援の継続、見直しや追加等の実施<br>・「シズケア＊かけはし」の普及促進<br>・データ活用において、在宅医療の完結率を見たいという市町からの希望があり、データ提供できるよう準備を進めている。 |